

巻頭インタビュー

SMILES OF THE WORLD
第31回東北大学国際祭り

グティエレス・アルバレス・トマス・ホセさん
コスタリカ共和国出身
東北大学留学生協会(TUFSA)代表

——5月22日の国際祭り、お疲れさまでした。仙台市地下鉄東西線の開通後、初めての開催でしたが、影響はありましたか？

東西線の影響かどうかは分かりませんが、例年の来場者数約3,000人より多くの方に来ていただいたと思います。各国の料理を提供する屋台が昨年より2つ増えて26になったことや天気良かったことが関係しているかもしれません。大学関係者ではない一般の市民の方が多かったようです。持ち込んだ楽器の演奏を始める人がいたり、会場の萩ホール前の芝生にテントを立ててくつろぐ家族連れがいたり、想定外のこともありましたが、参加者が積極的に楽しもうとして良かったと思います。

——新しい試みもあったと伺いました。

毎年、仙台在住のイラン人による屋台が出るのですが、今年はそれに加えて、東北大学とは直接関わりがない「ASIJ日本イラン学術会」という団体も参加しました。仙台在住のイラン人コミュニティとのつながりから参加が実現し、関東、関西、九州など日本各地から集まったイラン人会員の方々が、イラン料理の屋台とペルシャ文化を紹介するブースを出してくれました。学生寮への宿泊、調理スペース確保などをお手伝いしたところ、「楽しかった」などと言っていたので、本当に嬉しかったです。

——それは良かったですね。TUFSA代表として大活躍のトマスさんですが、ご出身や留学の経緯について教えてくださいませんか？

出身国コスタリカは、九州と四国を合わせたくらいの大きさしかありませんが、豊かな生態系を誇り、軍隊を持たない平和を愛する国です。国民の幸福感が高いことも有名で、人は温かいです。僕はその首都サンホセで、姉3人、兄1人の5人兄弟の末っ子として育ちました。高校の時に、数学、物理、化学などの論理的で明快な世界に興味を持ち、その中から、大学では、研究過程で自然と関わりがあり、学術的な理論が現実の社会に応用できると思った物理学を専攻することに決めました。さらに、研究環境が整った国で学ぶことで、多くの成長の機会が得られると思い、留学を志しました。

——どうして留学先として、日本を選ばれたのでしょうか？

両親の生き方が影響しているかもしれません。僕は10歳頃、アメリカのミシガン州の小さな町に約1年、家族と一緒に住みました。「子ども全員に英語を話せるようになってほしい」という夢を実現するため、父は金融関係、母は観光関連の会社に勤めていたのですが、揃って退職し、アメリカに一時住むという決断をしたからです。僕はその経験から既に英語は話せるので、留学では言葉も文化も全く違う国に行きたいと思いました。そして、



今年の国際祭りの閉会式。2年前に TUFSA メンバーで作った歌を皆で歌いました。

文部科学省の国費外国人留学生の試験を受けて合格し、2012年4月に日本に来ました。アメリカから帰国後、観光関係の会社を立ち上げた両親は、僕の留学に賛成し、応援してくれました。

——来日後の生活は、いかがでしたか？

1年目は、世界各国から来た留学生計50人で、大阪大学の日本語日本文化教育センターで日本語を集中的に勉強しました。僕を含めて理系の学生は、日本語を全く勉強したことがない人が多く、大変でした。その後の進学先には、物理学の優れた研究が行われていて、街の規模も程よいと思い、東北大学を希望しました。実際に仙台に住んでみると、街中で知り合いによく声を掛けられますが、大都市にないそのアットホームな雰囲気は気に入っています。苦労した日本語も上達し、今は日常生活でも研究室でも問題なく過ごしています。ちなみに、1番好きな日本語は「あらかじめ」で、響きが最高にクールで、公的な場面で使うと格好いいと思います。和食も好きで、納豆以外はなんでもOK。茶碗蒸しが特に好きです。

——留学で得たものはありますか？

TUFSAで、アジア、アフリカなど世界中から来た留学生と活動し、今はその多様な集団をまとめる立場にもいるので、考えの違う人との付き合い方や相手を説得する力を身に付けました。社会というものに対する理解も深まりました。全体としては、のんびりしたコスタリカと整然とした日本の社会は対照的ですが、それぞれ多様性を持つ点は共通だと思うようになりました。TUFSAの活動や接客のアルバイトで行動範囲が広がったことで、職業も関心も異なる多くの人が集まって社会を構成していることを実感したのです。

——今後の抱負を教えてください。

今年は大学生生活最後の年なので、個人的には研究を頑張ります。様々な物質の性質を理論的に解明する研究をしています。例えばスマートフォンなどの機器を製作する際の根拠となりうるもので、人間の生活の改善にもつながり、取り組み甲斐があります。TUFSA代表としては、50年以上の歴史を誇る協会の歴代のメンバーをつなぐネットワークをつくりたいです。現状では各自が在学した前後のメンバーしか分からないので、時代を超えたネットワークで在学が卒業生から助言をもらったり、卒業生に最近の活動の報告をしたりできればと思います。さらに、学内唯一の多国籍の留学生が所属する団体のリーダーとして、留学生を代表して率直な意見を伝え、東北大学の一層のグローバル化にも貢献したいです。

MIAイベントカレンダー

2016	8	S	M	T	W	T	F	S	9	S	M	T	W	T	F	S
	8		1	2	3	4	5	6	9					1	2	3
		7	8	9	10	11	12	13		4	5	6	7	8	9	10
		14	15	16	17	18	19	20		11	12	13	14	15	16	17
		21	22	23	24	25	26	27		18	19	20	21	22	23	24
		28	29	30	31					25	26	27	28	29	30	

※●はイベント開催予定日です。詳しい内容については以下でご確認ください。

アイコンの見方

主催

会場

時間

申し込み

参加費

電話

FAX

Eメール

ホームページ

8月 AUGUST

8～9月 第3水曜

申請取次行政書士による外国人のための
入管手続無料相談会

- 宮城県行政書士会
- 仙台市青葉区役所 4階 市民相談会会場
- 13:00～16:00
- 電話受付または予約なしでもOK
- 無料
- 022-261-6768
- 022-261-0610

8月4日、25日、9月8日、29日

英会話・ボランティア松島観光ガイド養成講座

- 松島善意通訳者の会
- 松島町勤労青少年ホーム
- 【英会話入門・初級】13:30～15:30
- 【ボランティアガイド養成講座】15:30～17:00
- 電話・メール
- 無料、教材は自己負担
- 022-354-3678(大浦)
- hoshido_mutsuo@ybb.ne.jp
- http://www.geocities.jp/matsushima-gw/

6、7日

北京中医药大学臨床教授 臨床実技講座

- 宮城華僑華人連合会
- 赤門鍼灸整骨専門学校国分町校舎 2階 講堂
- 【6日】10:30～16:00(受付9:30～)
- 【7日】9:30～15:00(受付9:00～)
- 要
- 要(詳細は下記までお問い合わせ下さい)
- 022-341-2440
- (宮城華僑華人連合会事務局)
- miyahqhr@yahoo.co.jp
- https://www.facebook.com/miyagichinese

7日

多文化家族のための子どもの学校生活について学ぶ会 2016 石巻

- 日本語を母語としない子どもと親のための進路ガイダンス実行委員会
- 共催:(公財)宮城県国際化協会など
- 石巻市向陽地区コミュニティセンター
- 13:00～15:00(受付開始12:30)
- 下記の石巻市復興政策部地域振興課に電話・FAX・メール
- 無料
- 0225-95-1111(内線4246・4247)
- 0225-22-4995
- islocpromo@city.ishinomaki.lg.jp
- http://shinro-miyagi.jimdo.com/

20日

INDONESIA CULINARY FESTIVAL 2016:
Cooking Class

- 在日インドネシア留学生協会宮城支部
- 仙台市北山市民センター
- 2階 調理実習室(仙台市青葉区新坂町8-4)
- 10:00～19:00
- 要(電話またはメールで8月10日までに予約、先着48名)
- 無料
- 080-4510-8333(ヴィキ-日本語)
- 080-1663-8604(Angga-English)
- ppisendai@gmail.com

9月 SEPTEMBER

9月 毎週日曜日と祝日

瑞巖寺ボランティアガイド

- 松島善意通訳者の会
- 瑞巖寺
- 10:00～15:00
- 不要(現地へ直接)
- 入場料700円は自己負担
- ※英会話・ボランティア松島観光ガイド養成講座と同じ

9月 毎週日曜日

円通院ボランティアガイド

- 松島善意通訳者の会
- 円通院
- 10:00～15:00
- 不要(現地へ直接)
- 入場料300円は自己負担
- ※英会話・ボランティア松島観光ガイド養成講座と同じ

15日

エチオピア・ラリベラのグリーン・マップ作り

- アフリカ・セミナーの会
- 仙台国際センター 研修室
- 10:00～12:00
- 不要
- 1,000円
- 022-362-7907

17～18日

第11回UNHCR難民映画祭 仙台

- 国連難民高等弁務官(UNHCR)駐日事務所
- 国連UNHCR協会
- 桜井薬局セントラルホール
- 詳細はウェブサイトをご確認下さい。
- 要(ウェブサイトよりお申込み下さい)
- 無料
- 03-3499-2011
- 03-3499-2272
- jpntorff@unhcr.org
- http://unhcr.refugeefilm.org/

17日

外国人の市民とその家族及び関係者のための
VISA・生活無料相談会

- NPO法人 ビザ&ライフサポートインみやぎ
- 大崎タイムス社
- 11:00～14:00
- 電話にて。当日直接も可能。
- 無料
- 090-7937-6716
- 022-358-1250
- http://www.visa-life-support.jp/

18日

第43回日中友好中国語
夏期スクーリング仙台会場
日本語と中国語の熟語の意味の違いについて
～その筆談“大丈夫”？～

- 講師:張立波氏(東北大学講師)
- 宮城県日中友好協会
- 仙台国際センター 研修室AB
- 10:00～11:30
- 要(電話・メール、先着50名)
- 1,000円
- (学生500円、友好協会会員800円)
- 022-274-3811
- jcfca-miyagi@rose.plala.or.jp
- http://www.16.plala.or.jp/miyagikenn/

19日

宮城華僑華人連合会「仙台中秋明月祭」

- 宮城華僑華人連合会
- 仙台ジョイテルホテル
- (旧ベストウェスタンホテル)
- 17:00～19:00(受付16:30～)
- 要(9月5日締切)
- 3,000円
- (会員・留学生2,000円、小・中学生1,000円、未就学児無料)
- ※8月6、7日と同じ

20日

英語セミナー(講師:新長富士子氏)

- 松島善意通訳者の会
- 松島文化観光交流館
- 10:30～12:00
- 電話・メール
- 無料
- ※英会話・ボランティア松島観光ガイド養成講座と同じ

21～25日

地球環境を守る「植林事業視察訪中団」派遣
(吉林省長春市農安生態保護林建設事業)

- 宮城県日中友好協会
- 吉林省長春市農安
- 宮城県日中友好協会
- 138,000円(空港使用料1,800円は旅行代金に含まれず)、1人部屋追加代金20,000円
- ※9月18日と同じ



平成28年度 みやぎのふるさとふれあい事業のお知らせ～みやぎのふるさとを体験してみませんか？～

宮城県国際化協会では、毎年秋に県内の市町村国際交流協会と共催で“みやぎのふるさとふれあい”事業を実施しています。この事業は、県内で暮らす外国人住民の方なら誰でも申し込むことができ、地域の伝統的なお祭りや行事に地元の方々と一緒に参加したり、ホームステイを体験したりすることができます。県内に暮らしていても、日本人と交流したり、日本文化を体験したりする機会が少ない外国人住民の皆さん、この事業で“みやぎのふるさと”を体験してみませんか。

今年は3つの市・町で、以下の日程で行う予定です。お問い合わせは、直接、実施市町村までお願いします。※募集人数の制限、締切日がありますので、早めにお問い合わせ下さい。

申込用紙と詳細情報は、当協会のHPでダウンロードできます。



祭りに参加

実施市町村	実施日	内容	申込先
利府町 利府町国際交流協会	9/24~25	梨狩り、新幹線車両基地見学、 ひとめぼれスタジアム宮城見学、ホームステイなど	政策課 地域協働班 Tel 022-767-2113 Fax 022-767-2100 kyodo@rifu-cho.com
石巻市 石巻市国際交流協会	10/1~2	復興まちづくり情報交流館、石ノ森萬画館、 日本庭園「森芳春荘」見学、ホームステイ	Fax 0225-23-3641 Hajime.Konno@city.ishinomaki.lg.jp
村田町 村田町国際交流協会	10/9	布袋祭りの山車曳き、町内施設見学など	企画財政課 Tel 0224-83-2112 Fax 0224-83-5740 tanno@town.murata.miyagi.jp

ライブラリー

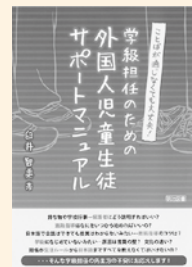
ライブラリーのコーナーで紹介されている図書は全て貸し出しまたは当協会図書資料室で閲覧可能です。

「学級担任のための 外国人児童生徒サポートマニュアル」

著者:臼井智美 発行:明治図書

在留外国人が増加傾向にあるなか、文科省の調べでは、全国の市町村のおよそ5割に外国人児童生徒が在籍しているという状況になっています。宮城県内の多くの公立小中学校でも外国人児童が学んでおり、MIAにも支援者の派遣や高校進学などについて相談が寄せられることが増えてきました。

本書は、外国人児童生徒の受け入れにあたって知っておくべきこと(例:就学の手続き、指導する上での留意点、文化的な違いを考慮することの重要性)を網羅的にまとめたもので、書名通り「マニュアル」的な役割を果たしてくれます。「学級担任のための」とありますが、学校以外でサポートしている方々にとっても役に立つ一冊です。



JICA東北からのお知らせ

所在地 〒980-0811仙台市青葉区一番町4-6-1 仙台第一生命タワービル20階
TEL 022-223-4772 FAX 022-227-3090 E-mail thictpp@jica.go.jp
JICA東北ホームページ <http://www.jica.go.jp/tohoku/>

※JICA=独立行政法人国際協力機構(開発途上国に対する総合的な二国間援助機関で、技術協力・有償資金協力・無償資金協力を行っています)

JICAは、2011年の東日本大震災発生後より、被災地での復興支援事業を開始しました。この事業では、「防災」や「復興」というキーワードを通し、復興の過程で多くの知見や教訓を蓄積した東日本の被災地と、自然災害に脆弱な途上国の間でお互いに学び合い、そこで得た知見や教訓を新たに被災した途上国への支援に活かすという循環型の国際協力を展開しています。

この事業の一つとして、東松島市の被災地域コミュニティの復興支援のお手伝いをするため、JICA地域復興推進員が活動しています。今回は、その2名の推進員を紹介します。

〈JICA地域復興推進員〉

秋山 千恵 (東松島市宮戸地区担当)

石巻市出身。青年海外協力隊員(職種:食用作物・稲作栽培)として2012年3月から2年間ルワンダへ派遣。地方行政事務所に配属され、農業技官とともに農業協同組合や水田を訪問し、農民や協同組合員に種まき、田植え、除草、収穫等、稲作に関する指導を行いました。

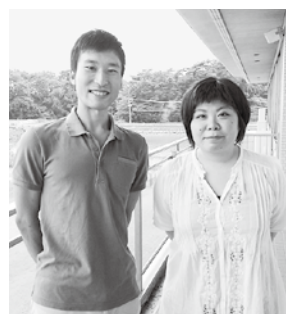
秋山コメント▶現在は、宮戸地区の特産品を活かし、食を通して地域を元気にするコミュニティビジネス「げんちゃんハウス」支援を中心に、宮戸らしさを出した活動を企画するお手伝いをしています。宮戸は風光明媚な奥松島に位置し、観光名所としても名高い場所であり、観光分野の支援にも力を入れていきたいと思っています。

齊藤 弘紀 (東松島市野蒜地区担当)

仙台市出身。青年海外協力隊員(職種:PCインストラクター)として2012年6月から2年間エチオピアへ派遣。現地の高校に配属され、コンピュータの操作に関する授業や、コンピュータ及びネットワークのメンテナンスを通じた技術移転の活動を行いました。

齊藤コメント▶現在は野蒜地区で、コミュニティが復興していく過程の支援をしています。例えば、高台に移転する住民の方々の話し合いのファシリテーターを担ったり、話し合われた内容を、様々な方に知っていただくために「野蒜復興新聞」として発行したりするお手伝いもしています。野蒜地区は高台の移転地が整備され、新しいコミュニティが作られようとしています。そのような中、そのコミュニティが長期間にわたって賑わい、住民の方々が生きがいを感じながら生活できる場となるよう、地域と連携しながらアイデアを出し、一つ一つ実現していこうと活動しています。

これから始まる夏休み。皆さんも是非、東松島へ足を運んでみてはいかがでしょうか。





《平成28年度JET-Care通訳登録時研修会》が開催されました

昨年度から始まった「JET参加者生活支援事業」のなかの通訳サポーター研修会が、去る6月10日実施されました。

既に県内15市区町村35名の英語通訳者の登録がある本事業ですが、今年は更に9名の新規登録をいただきました。

この研修会では、登録に際して、知っておきたい通信機器契約の最新情報や外国運転免許の切替時に発生しがちなトラブルなどについて、経験豊富なJET-Care通訳一期生の高橋旺礼南さん、板橋あづささん、リチャード・ハルパーシュタットさんの各氏からそれぞれご講話いただきました。外国人の方にとっての不便は、私たち日本人にとって当

たり前の日常を見直すことにも繋がり、参加されたみなさんは熱心に耳を傾けていました。

毎年7月から8月にかけてのこの季節。JETプログラムでは、帰国する青年たち、新規来日する青年たちが交錯します。JET青年たちの宮城での暮らしがより実り多いものになるよう、市民パワーを活かして応援したいものです。



多文化なトピック

震災から5年 宮城在住外国人の状況

東日本大震災から5年。この間、県内在住の外国人の状況にどのような変化があったのか、震災前の平成22年末と平成27年末のデータを、国籍別、在留資格別に比較します。

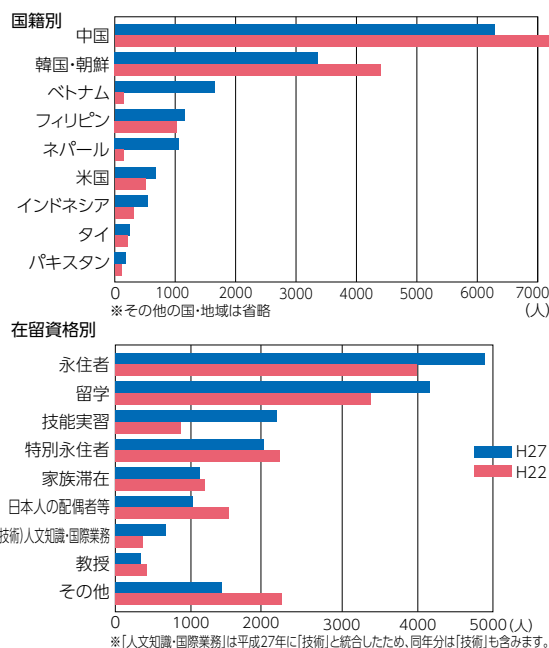
全体数は、震災前の16,101人に対して平成27年末は17,708人で、1,607人増加しています。（※このデータでは分かりませんが、震災後、原発事故への不安などから多数の外国人が帰国し、全体数は急減しました。しかし、震災が発生した平成23年末の13,973人を底として徐々に増え、平成26年末には震災前を上回っています。）

国籍別では、中国、韓国・朝鮮という上位2ヶ国の順位に変動はありませんが、それぞれ13%、23%減少しています。大きな変化が見られるのは、ベトナムとネパールで、それぞれ約11.3倍の1,652人、約7.2倍の1,060人と激増しています。

在留資格別では、「永住者」、「留学」の上位2資格の順位は同じですが、それぞれ22%増、23%増となっています。「永住者」の増加は、国際結婚で「日本人の配偶者等」の資格で来日した外国人が定住後に切り替えるといったケースが多いと見られます。「留学」の増加は、大学で学ぶ留学生が増えたことに加え、日本語学校にベトナム人及びネパール人の学生が急増したことが関係していると思われます。

注目すべき点は、「技能実習」が約2.5倍になっていることです。震災後、大勢の実習生が帰国しましたが、復興が進み、労働需要が高まったことから、沿岸部の水産加工現場などで働く実習生が大幅に増えていることがデータにも反映されています。実習生は、以前は中国人が多く見られましたが、最近はベトナム人とインドネシア人が増えているようです。

※データはすべて法務省在留外国人統計による。



MIA法人賛助会員ご紹介コーナー

株式会社橋本店(本社・仙台市)



▲駐日ニュージーランド全権特命大使マーク・シンクレア氏から名誉領事の任命書を授与される佐々木宏明氏＝平成26年5月

初代社長の橋本忠次郎氏が明治11年、定禅寺通り沿いに「橋本組」を設立して以来138年間、鉄道工事から始まり庁舎、病院等の公共施設やダム、橋梁工事等の公共土木工事にいたるまで、建設工事に携わる宮城県を代表する企業です。東日本大震災発生後は、被災した公共土木建築物など、復旧復興の工事を数多く手掛けています。

社会貢献活動として、災害時に地域住民の一時避難所などにも活用できる防災施設「テクノロジーマネジメントセンター」を平成23年に宮城野区に開設しました。現在は創業140年に向けて、同社が施工した公園や小・中学校に計15,000本の桜の木を植樹する事業も展開中です。現社長の佐々木宏明氏が在仙台ニュージーランド名誉領事に任命されたことから、平成26年5月に同国名誉領事館を開設、東北6県を管轄し、同国と東北との交流促進も図っています。

シンボルマークは、「空を飛ぶクジラ」。生き抜くために体を変化させ、陸から海へと生活の場を移したクジラに、形や考えを変えて時代のニーズに応え続けるという同社の企業理念を重ねるとともに、飛躍の願いも込めています。



賛助会員募集

MIA(公財)宮城県国際化協会は、県民参加の幅広い国際交流を進め、人と人との輪を広げていくために、皆様の御理解と御協力を求めています。



- 賛助会員の資格
本協会の趣旨に賛同し、運営活動に協力していただく個人や団体(国際活動団体、企業、機関)など
- 賛助会員の区分と年会費
個人会員/1口 3,000円
団体会員/1口 10,000円
- 賛助会員の特典
◎協会機関紙「みやぎの国際情報誌 倶楽部MIA」の定期送付(年6回)

- ◎当協会主催のイベントや各種講座の案内及び参加費の減免
- ◎個人会員については協会と提携する旅行会社が指定する国内外の旅行代金の一部割引
(株)JTB東北仙台支店 宮交観光サービス(株)
- ◎企業会員については世界各国国旗の無償貸出し、及び外国人スタッフ等による国際理解出前講座の無償提供
- 入会方法
◎本協会まで御連絡ください。
所定の申し込み用紙と振り込み用紙を送付いたします。



倶楽部MIA vol.86

編集・発行
公益財団法人 宮城県国際化協会
〒981-0914
仙台市青葉区堤通兩宮町4番17号
宮城県仙台合同庁舎7階
TEL 022(275)3796
FAX 022(272)5063

E-mail mail@mia-miyagi.jp URL http://mia-miyagi.jp/